日本福祉大学福祉社会開発研究所『日本福祉大学研究紀要－現代と文化』
第133号　2016年3月

〈エッセイ〉

女がみた「男の世界」
――富山県高岡市C村の獅子舞調査2――

西　島　千　尋

要　旨

近年の日本では，過疎化や高齢化により芸能の担い手が不足する傾向にある．そのために芸能を維持できなくなると，任意団体（たとえば青年団）から，公的な団体（たとえば保存会）に転じるケースが多い．この両者の違いは，構成員が変化することであるが（男性の青壮年から，男女を含む子どもから高齢者まで），実際には人々のモチベーションや芸能それ自体にも影響を及ぼしている．

本エッセイは，獅子舞が盛んな富山県にある高岡市C村の獅子舞の調査にもとづき，芸能を維持する団体に着目するものである．C村の獅子舞は，青年団として活動を維持できなくなったにも関わらず，保存会には転じずOBが主力になって活動するというユニークな形態をとっている．そのため，男同士の関係が団体の紐帯のために重要になるのだが，その関係性は，そこに上手く身を投じられない人々（たとえば高校生や女性）を寄せ付けないという側面もある．一方では，男同士の関係だからこそ，芸能は生き生きとしている．こうした青年団でも保存会でもないユニークなC村の活動形態から，青年団と保存会という異なる二者の特徴を描き出すことで，現代日本における芸能の維持を考える．

キーワード：獅子舞，コミュニティ，芸能，伝統，保存